

退院がゴールではなく、退院後の生活までも考える看護を

母の仕事に憧れて看護師へ

看護師は、いつ頃からめざしておられましたか？

母が看護師で、子どもの頃から看護師に憧れがあり、高校卒業後、滋賀県立総合保健専門学校へ進学しました。さまざまな病院での実習では、患者さん一人を担当し、それぞれの患者さんから多くのことを学ばせていただきました。

なぜ、この病院へ就職されたのですか？

学校では奨学金制度を利用して学びました。私が利用した制度では、卒業後は高島市民病院に3年間勤めるというものでした。看護師になるための奨学金制度は、経済的な面では大変恵まれた制度だと思



DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1990年、大津市生まれ。2012年、高島市民病院に就職。気持ちの切り替えに休日はバス釣りや友人とスノーボードへ。男性看護師同士のメンズ会での飲み会も楽しみです。

●1日のタイムスケジュール



います。ただし、そのために勉強するべきことは沢山ありますが。

入院から退院、その後の日常生活までを考えて

病院での仕事について教えてください。

配属は外科系入院病棟です。初年度は約半年経った頃にローテーション研修として、院内の各科を2週間ずつ経験していきました。2年目からは、受け持ち患者さんを持ち、入院から退院までを担当していきます。月に6～7名を受け持ちますが、入れ替わりが激しい病棟なので、早い方ですと3日程で退院される場合もあります。

患者さんを担当する看護師の仕事とは？

患者さん一人ひとりに多職種のスタッフとチームを組み、退院まで対応するのですが、退院に向けての指導や方向性を決めるのに、中心になるのは受け持ち看護師です。例えば、人工肛門の手術を受けられた方の場合、手術後の排泄で変化が大きく、日常生活のために指導が必要になります。そこで看護師が中心となり、医師やリハビリ担当者、退院後に対応する訪問看護などとチームを組み、患者さんの退院、日常生活への復帰に向けたサポートについて検討します。入院中の経過をまとめた看護サマリーは退院後の訪問看護にも重要となり、退院後も担当看護師の責任が続きます。

ご家族への看護も重要

やりがいを感じる時はどんなときですか？

一生懸命考えてお世話した結果、患者さんが回復され、日常生活に復帰される時はうれしいですね。患者さんとのコミュニケーションの中で、患者さんの状態や心の変化などを汲み取り、患者さんの願いやご家族のことなどを考え、ご家族とも相談しながら退院後の生活を見越して、看護方針を考えていきます。退院がゴールではなく、日常へ戻られることをめざして看護しています。

どのようなことに難しさを感じますか？

以前、ガンの患者さんを担当した時、ご家族も告知のショックを受けておられ、ご

家族への看護も重要でした。手術後、ご自宅での療養も可能でしたが、必要な医療器具などを付けた状態での帰宅に、ご家族の不安と戸惑いが大きく、退院はかないませんでした。難しさを感じました。一人ひとりが違うように、看護も同じものはありません。患者さんお一人おひとりをよく知るために、患者さんやご家族とよくコミュニケーションを取ることが大切だと思っています。

専門性の高い看護師をめざしたい

看護師としての今後の展望をお聞かせください。

医療は日々進歩しており、30年仕事されている先輩でも日々勉強だと言われます。看護師には認定看護師という資格があり、専門性を高めていくこともできます。5年間の実務経験を積み、さらに専門の学校で学ぶ必要がありますが、私自身もいずれは皮膚・排泄ケア認定看護師を目指したいと考えています。専門性の高い看護師をめざし、長く仕事を続けたいと思います。



看護師をめざす若い方へメッセージをお願いします。

看護師は、相手の立場に立って考えられる人なら適正があると思います。仕事を通して、他人の痛みや辛さに共感する力が強くなったと感じます。簡単な仕事ではありませんが、やりがいがあり、一生できる仕事です。特に男性看護師はまだ少なく、ぜひ男性にも目指してほしいですね。男性の患者さんにとっては、男性看護師だからこそ話しやすいこともあります。

「試練は乗り越えられるから与えられる」という両親の言葉が励みです。壁に当たっても、前向きに対応しています。

高島市民病院

〒520-1121 高島市勝野1677

TEL : 0740-36-0220 FAX : 0740-36-8058

HP : <http://www.city.takashima.shiga.jp/tmh>